



VOICETONE™
harmony G·XT
PRODUCT MANUAL

JAPANESE VERSION
ユーザーマニュアル

警告

火災や感電のリスクを軽減するため、本機を雨や湿度にさらさないでください。

注意

本機器は FCC 基準 Part 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合するための試験に合格しています。

動作には次の二つの条件が定められています： (1) 本機が有害な電波障害を起こさないこと、(2) 本機が、誤動作を起こす電波障害を含め、あらゆる受信障害電波を受け付けること。



正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは「電気に注意！」を意味します。動作電圧や、感電リスクの可能性についての情報が含まれることを示します。



三角形に括られた「！」サインは、「注意！」を意味します。このサインの脇の情報をお読みください。

イントロダクション	4
クイックスタート	6
セットアップ例	11
フロントパネル	12
バックパネル	15
Harmony-G XT の機能と操作方法	16
プリセットのロード (呼び出し)	16
ハーモニーの生成	16
Tone - トーン・ボタン	16
ミキシング	17
ハーモニー・レベルの調節	17
エフェクト・ボリュームの調節	17
ギター・ボリュームの調節	17
Double - ダブル・ボタン (ヴォーカルのダブリング)	18
プリセットのエディット (編集)	18
Voice 1 & 2 ボタンの機能	18
「Higher」「Lower」等の意味	18
エディットしたプリセットの保存	18
エフェクトの変更	19
チューナー	19

高度な設定	20
エフェクト・スタイルの高度な設定	20
プリセット数の変更	20
Manual - マニュアル・ボタン	20
トーン・セッティングの高度な設定	21
ギター・リバーブ/ディチューン	22
ダブリングの高度な設定	22
モノラルとドライ・アウトを使った外部ミキシング	22
ファクトリー・リセット:工場出荷時の設定への復帰	23
基準ピッチの変更	23
VoiceSupport アプリケーション	24
概要	24
初回起動時	24
Download - ダウンロード・タブ	25
Backup - バックアップ・タブ	25
FAQ とトラブルシューティング	26
エフェクトとダブリングのオルタネイト設定リスト	28
仕様	29

イントロダクション

VoiceTone Harmony-G XT へようこそ

Harmony-G XT は、ライブ・ヴォーカルのプロダクションに最高のクオリティと効果的な演出を求めるシンガーのために開発されました。ギター演奏とヴォーカルに追従するハーモニー・シンガーを含む、完全な「ヴォーカル・プロダクション・センター」ともいえる充実した機能を凝縮しています。

全ての機能をすばやく、そして簡単に使いこなせるように、Harmony-G XT はシンプルで使いやすい操作性を実現しています。

Harmony-G XT は、プロフェッショナルの手によって作成されたパッチが搭載されています。これらのパッチで得られるサウンドを使用者の好みに調節するために、設定をエディットするためのコントロールも搭載しています。

製品情報は常時更新されておりますので、www.tc-helicon.com で最新情報をご確認いただくことをお勧めいたします。

主な特徴

- ギターの演奏に合わせて1または2ヴォイスのハーモニーを生成
- リード・ヴォイスにリッチな質感を与える、オーバーダブ・スタイルのダブリング機能
- 高品位リバーブとディレイ・エフェクト
- ギターからの信号の送り先を、Harmony-G XT のエフェクトまたは直接アンプに指定可能
- パート A/B スイッチにより、2つの設定を瞬時に切り替え可能
- 設定の変更とパッチの保存を素早く行える優れた操作性
- XLR マイク・レベル入力搭載、ステレオとモノラル出力対応
- クリーンなスタジオ・クオリティのマイク・プリアンプ搭載、ファンタム・パワー対応

TC-Helicon について

TC-Helicon では、「声」は世界で最も美しい楽器であると考えています。世界中にあふれる他の美しい楽器を蔑む意図はありませんが、考古学的にも「声」はあらゆるメロディの源と言えます。

カナダのビクトリア州にいるエンジニア・研究者・製品スペシャリストの集団が、シンガーや歌唱に情熱を持った人々との会話や連絡／歌唱などを通じて、全ての時間を「声」に捧げています。

様々な活動から得られた経験と知識は、現代のヴォーカリストに向けた製品の開発に役立てられています。TC-Helicon の製品は、ヴォーカリストのクリエイティビティをかき立て、実力を発揮することを妨げる技術的なバリアを取り除くことを目標としています。だからこそ、ヴォーカル用のマルチエフェクト・ペダルからニアフィールドのパーソナル・ヴォーカル・モニターまで、多様な製品が用意されているのです。

Enjoy!

The TC-Helicon Team
a TC Group Company

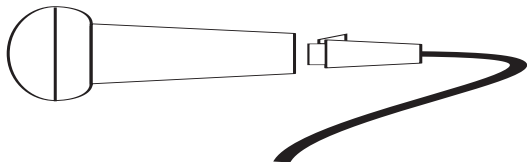
クイックスタート

ステップ 1:

マイクにマイク・ケーブルを接続します。

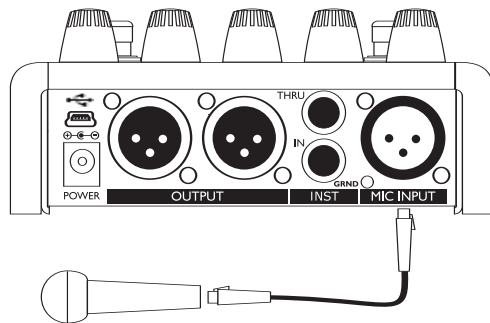
NOTE:

この時点では、Harmony-G XT の電源は入れないでください。



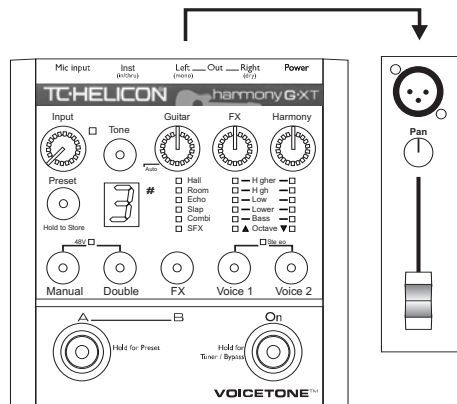
ステップ 2:

マイク・ケーブルを、Harmony-G XT の Mic Input 端子に接続します。



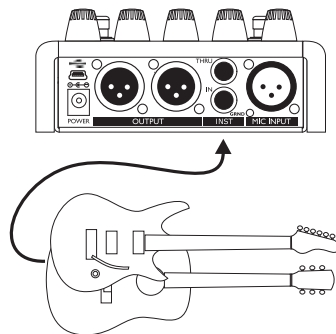
ステップ 3:

接続とセットアップ中は、ミキサー・チャンネルのフェーダーをオフにします。Harmony-G XT の Left (Mono) Out 端子からサウンド・システムのマイク入力に XLR ケーブルを接続します。



ステップ 4:

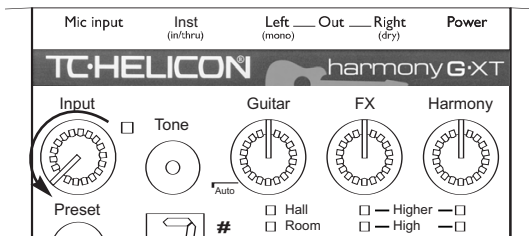
1/4"ギター用ケーブルをエレキまたはアコースティック・ギターから Harmony-G XT の Inst In 端子に接続します。今の時点では、Thru は使用しません。ギターのサウンドはヴォイスとエフェクトにミックスされて Left (Mono) Out 端子から出力されます。



クイックスタート

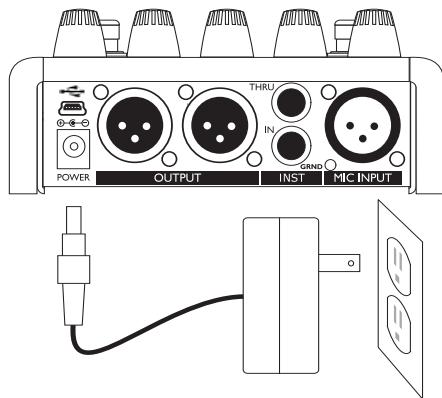
ステップ 5:

Input ノブを左に回しきり、Guitar / FX / Harmony ノブを全て 12 時のポジションに設定します。



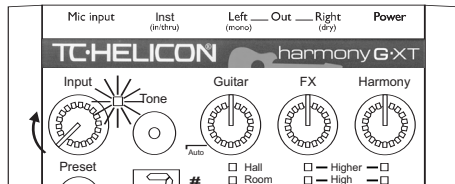
ステップ 6:

Harmony-G XT の電源アダプターを Harmony-G XT の Power 端子に接続し、コンセントに接続します。オン/オフ・スイッチはありませんので、電源を接続すると本体が自動的にオンになります。



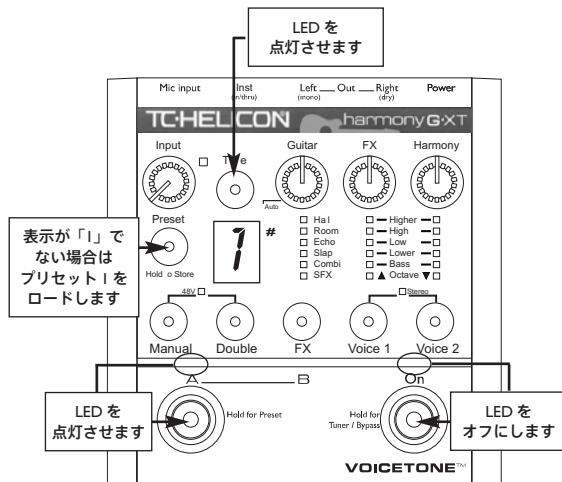
ステップ7:

マイクに向かって歌いながら、Input ノブを右側に回して行き、レベルを調節します。通常は Input ライトがグリーン、声の大きい場面では稀にオレンジに点灯するように設定します。赤く点灯させないでください。



ステップ8:

LED が下の状態と一致していることを確認します。LED の状況が異なる場合は、そのボタンを押すと状態が切り替わります。



クイックスタート

ステップ 9:

ヴォーカルが良く聴こえるようになるまで、ミキサー・チャンネルのフェーダーをゆっくりと上げていきます。良好なレベルを得られたら、ヴォイスはリバーブが加えられた状態できれいに聞こえるはずです。

重要なポイントとして、ハーモニーを試す前に、この段階でギターのチューニングを行ってください。On ボタンを長押しして Harmony-G XT のチューナー/バイパス・モードに入ります。弦を一本ずつ鳴らし、ピッチを確認します。プリセット・ディスプレイ上には一番近い音程が表示され、FX と Voice 1 / 2 ボタンの上にはその音程に対するズレ幅（シャープ/フラットさ）が表示されます。各弦をチューニングしていきます。

これで、Harmony-G XT のハーモニー・ヴォイスを確認する準備が整いました。On フットスイッチを押し、ギターでコードを弾きながら知っている曲を歌ってみてください。ギターがハーモニーの反応を決めますので、ギターのボリュームが上がっていることを確認してください。

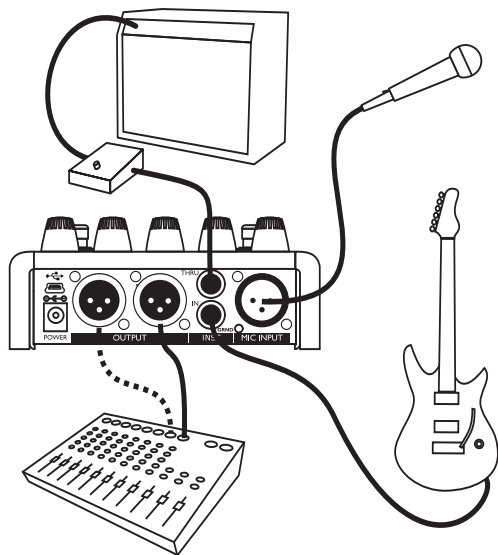
プリセット・ボタンを押して様々なプリセットを切り替えながら Harmony-G XT の機能を体験できます。A/B フットスイッチを踏むことによって、プリセット毎に用意されている二つの設定を切り替えることができます。

Harmony-G XT の機能を理解しフルに活用するためにも、このマニュアルをご一読ください。

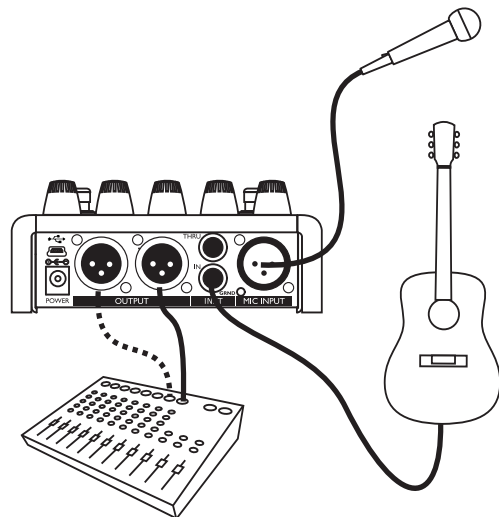
セットアップ例

エレキギターのセットアップ

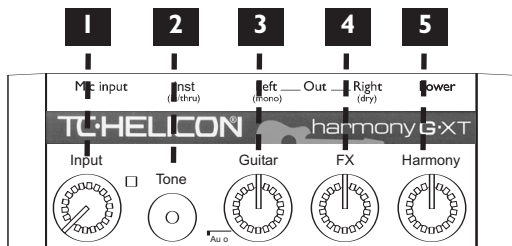
点線は、オプションとなるステレオ接続の場合の配線です。



アコースティック・ギターのセットアップ



フロントパネル



1. Input - インプット・ノブ/LED

インプット・レベルを調節します。LEDが通常はグリーン、声の大きい場面では稀にオレンジに点灯するように設定します。赤く点灯させないでください。

2. Tone - トーン・ボタン

2種類のエフェクトをオン/オフします。

1. トーン・エフェクト (ライブ・エンジニア・エフェクト) は、ヴォイスをよりスムーズでブライトなサウンドに仕立て上げます。Tone ボタンのシングルクリックでオン/オフします。

2. 自動クロマチック・ピッチ補正は、キーやスケールの設定を必要としない軽めのピッチ補正を行ないます。トーン機能とは独立しており、Tone ボタンのダブルクリックでオン/オフします。

状態は、LEDの光り方で確認できます。

- トーンのみがオンの場合はLEDが点灯します。
- ピッチ補正のみがオンの場合は、LEDが消えている状態からLEDが周期的に点滅します。機能のオン/オフ時には、一時的に光ります。
- トーンとピッチ補正が両方オンの場合は、LEDが点灯している状態からLEDが周期的に消えます。

これらのエフェクトは、バイパス時にもヴォイスに常に施されます。

3. Guitar - ギター・ミックス・ノブ

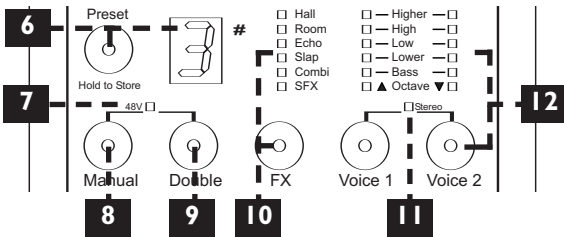
ギターがメイン出力にルーティングされている (Inst Thru 端子を使用していない) 場合の、ギターのボリュームを調節します。左に回しきった Auto (オート) のポジションでは、ギターとヴォイスのボリュームを自動的に調節します。そのすぐ上ではオフの状態となり、ギターはミュートされます。そのまま時計回りに回していくと、ギターのミックス・レベルを手動で調節できます。

4. FX - エフェクト・レベル・ノブ

FX ボタンで選択したエフェクトのミックス・レベルを調節します。

5. Harmony - ハーモニー・レベル・ノブ

ハーモニーとダブリング・エフェクトのミックス・レベルを調節します。



6. Preset - プリセット・ボタン/ディスプレイ

5つのプリセットを順番に切り替えます。プリセット番号はディスプレイに表示されます。ボタンを長押しすると、プリセットの内容に加えた変更を保存します。「#」はチューナーとマニュアル・モードで使用します。

7. 48V - ファンタム・パワー LED

Manual と Double ボタンを同時に2秒長押しすることによりファンタム・パワーをオン/オフできます。ファンタム・パワーを必要とするコンデンサー・マイクを接続する場合に使用します。

8. Manual - マニュアル・モード・ボタン

ハーモニーのギター・コントロールを切り替えます。詳細は、「高度な設定」セクションをご参照ください。

9. Double - ダブル・ヴォイス・ボタン

同じシンガーによるヴォイスを二つ重ねる「ダブリング」効果をオン/オフします。

10. FX - エフェクト・ボタン/ LED ディスプレイ

プリセットのエフェクト・スタイルを順番に切り替えます。LEDが消えている場合は、エフェクトはオフとなります。

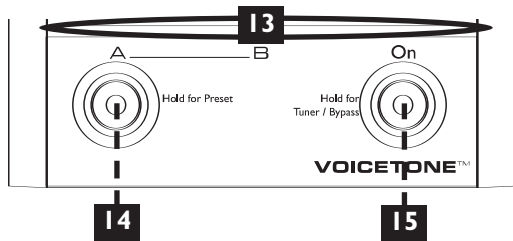
11. Stereo - ステレオ・セレクト・ボタン

Voice 1 と Voice 2 ボタンを同時に2秒長押しすることによりステレオとモノラル出力を切り替えられます。

フロントパネル

12. Voice - ヴォイス・ボタン／ディスプレイ

Voice 1 / 2 ボタンは、a) ヴォイスのインターバル（音程差）の変更、b) LED がオフの際にハーモニー・ヴォイスをオンにする、c) ヴォイスをオフにする、の3つの機能に使用します。両ヴォイスを同じインターバルに設定すると、ハーモニー・ヴォイスに厚みが増します。



13. LED インジケーター・バー

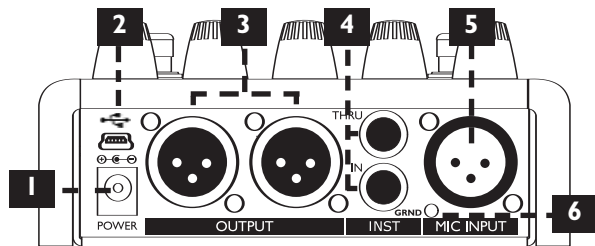
プリセットのA/Bの状態とOn フットスイッチの状態を表示します。

14. A/B - プリセット A / B セレクト・フットスイッチ

パフォーマンス中に2つのサウンドを切り替えるのみであれば、A/B フットスイッチで素早く設定を切り替えられます。より多くのプリセットにアクセスするには、スイッチを長押しすることでプリセット・セレクト・モードに入ります。その段階でA / B プリセットどちらが選択されていたかによって、その後A/B スwitchを押す度に、AまたはBのプリセットを順番に切り替えます。

15. On - オン・フットスイッチ

選択されているプリセットのダブリングとハーモニー・エフェクトをオン／オフします。ハーモニーがミュートされていても、リバーブとディレイ・エフェクトはオンの状態を保ちます。このフットスイッチを長押しするとチューナー／バイパス・モードに切り替わり、無音でのチューニングが行えると共に、トーンを除く全ての処理をバイパスします。



1. Power - 電源入力

付属の DC パワー・アダプター用の入力コネクタです。本体にオン／オフ・スイッチはなく、電源を接続すると自動的にオンになります。

2. USB コネクター

バックアップやアップデートの際に Harmony-G XT をコンピュータに接続する用途に使用します。詳細は、「VoiceSupport アプリケーション」セクションをご参照ください。

3. Output - アウトプット

ステレオ（デフォルト）またはモノラルでメイン出力を行う XLR 端子です。モノラルでの使用については、「高度な設定」セクションの

「モノラルとドライ・アウトを使った外部ミキシング」をご参照ください。

4. Inst In/Thru - インストゥルメント・イン／スルー

In 端子にギターを接続できます。接続には標準 1/4"ギター・ケーブルを使用します。他のエフェクト・ペダルは Harmony-G XT の後に接続してください。インプットはハイ・インピーダンスです。Thru 端子はギターの信号を出力します。出力をエフェクト・チェーンの最初の機器、またはアンプ／PA システムに接続します。

5. Mic Input - マイク・インプット

マイク用のバランス・ロー・インピーダンス入力端子です。

6. Grnd - ギター・グラウンド・リフト

Thru 端子からアンプまたは PA に接続した際にバズ・ノイズが生じる場合などに、このボタンを押すことによりグラウンド・リフトを行います。Thru 端子を使用せずに内部ルーティングを行う場合は、このボタンはオフにしてください。接続する機器や配線によってグラウンドの設定はシステム全体の電気的な安全性に関わりますので、設定時には必ず安全性をご確認の上ご使用ください。

Harmony-G XT の機能と操作方法

プリセットのロード（呼び出し）

Preset ボタンを押すと次のプリセットに切り替わり、サウンドが変わります。立ったままの操作で2つの設定を交互に切り替えるには、A/B フットスイッチを使用します。

立ったままの操作でより多くのプリセットにアクセスするには、A/B スイッチを長押ししてプリセット・セレクト・モードに入ります。その段階でA/Bプリセットどちらが選択されていたかによって、その後A/Bスイッチを押す度に、AとBそれぞれ5つ用意されているプリセットを順番に切り替えます。

ハーモニーの生成

ギターでコードを弾きながら曲を歌います。On フットスイッチを踏んでオンにすると、ロードされているプリセットの設定に応じたハーモニー・ヴォイスが聞こえます。On フットスイッチを再度踏むとハーモニー・ヴォイスはミュートされ、ハーモニーなしの状態となります。

Tone - トーン・ボタン

Tone ボタンのシングルクリックでライブ・エンジニア・エフェクトをオンにすると、ヴォイスがよりスムーズでプライトなサウンドになります。このエフェクトは、アダプティブ・シェイプEQ / アダプティブ・コンプレッション / ディエッサーの、3つの高品位なスタジオ・エフェクトの組み合わせです。歌っていない時にハーモニー・レベルを下げるによりサウンドをよりクリーンにするゲートも用意されています。

Tone ボタンのダブルクリックで自動クロマチックピッチ補正をオンにすると、ヴォイスが一番近いクロマチックな音程に向けてゆるやかにシフトされます。ピッチ補正が正しく作動していると、歌っている間はスピーカーからの補正された音程と、シンガーの頭部で共鳴しているオリジナルの音程が重なって聞こえます。ピッチ補正は、A=440 Hz のチューニングで作動します。

Harmony-G XT の機能と操作方法

ミキシング

Guitar / FX / Harmony のコントロール・ノブは、それぞれの要素をどれだけリード・ヴォイスに加えるかを調節します。設定したバランスは全プリセットに共通です。センター・ポジションでは、一般的な用途における最善のバランスが得られる工場出荷時の設定となります。

ハーモニー・レベルの調節

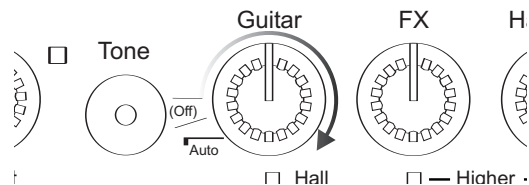
Harmony コントロール・ノブは、元のヴォイスに加えるハーモニーの量を調節します。Double ボタンがオンの場合、ダブリング・ヴォイスのレベルもここで設定します。

エフェクト・ボリュームの調節

FX コントロール・ノブは、FX ボタンで選択したエフェクトのミックス・レベルを調節します。

ギター・ボリュームの調節

Guitar ノブは、ギターがメイン出力にルーティングされている (Inst Thru 端子を使用していない) 場合の、ギターのボリュームを調節します。最小の Auto (オート) のポジションでは、演奏中にバランスを保つようにギターとヴォイスのボリュームを自動的に (約 20 秒で) 調節します。そのすぐ上ではオフの状態となり、ヴォーカルをアカペラで聴かせたいときなどのためにギターを一時的にミュートします。そのまま時計回りに回していくと、ギターのミックス・レベルを手動で調節できます。



Harmony-G XT の機能と操作方法

Double - ダブル・ボタン (ヴォイスのダブリング)

Double ボタンは、同じシンガーによるヴォイスを二つ重ねる「ダブリング」効果をオン/オフします。ダブリング効果は、リード・ヴォイスに厚みを加えます。プリセット毎にオン/オフの状態を保存できます。

プリセットのエディット (編集)

Double / FX / Voice 1 / Voice 2 ボタンでセッティングを調節できます。Preset ボタンを押すとエディット内容はキャンセルされ、次のプリセットに移動します。Manual ボタンの機能については、「高度な設定」セクションをご参照ください。

Voice 1 & 2 ボタンの機能

該当するヴォイスの、ハーモニーのヴォイスングを変えます。ここで、特定のヴォイスをオフにすることも可能です。「ヴォイスング」とは、元のヴォイスの音程に施すピッチシフトの特性のことを指します。

「Higher」「Lower」等の意味

ハーモニーの音程の並び方を指定します。この設定によって、ヴォーカル・ハーモニーの印象が変わります。設定毎のインターバルは次の通りです：

- Higher - 通常、5度 (7セミトーン) 上
- High - 通常、短3度または長3度 (3または4セミトーン) 上
- Low - 通常、短3度または長3度 (3または4セミトーン) 下
- Lower - 通常、6度 (8セミトーン) 下
- Bass - ディープな声でギター・コードのルートを追います
- Octave Up / Down - ギターのコードに関わらず、元ヴォイスの上 / 下1オクターブ (12セミトーン) の音程を追います

エディットしたプリセットの保存

プリセットに変更を加えた設定を保存することができます。Preset ボタンを長押しすると、該当するプリセット番号のAとBの内容が保存されます。例えば、プリセット1番でAとBの内容を保存すると、一度本体をオフにした後で次回電源を投入した時にもその設定をすぐに呼び出せます。Input / Tone / Guitar / FX / Harmony ノブの設定は本体全体のグローバルな設定のため、保存されません。

Harmony-G XT の機能と操作方法

エフェクトの変更

FX ボタンを押すと、プリセットのリバーブとディレイ・スタイルが切り替わります。変更した設定は、保存できます。

チューナー

On フットスイッチを長押しするとチューナー／バイパス・モードに切り替わります。On LED が点滅します。解放弦を一本鳴らすと、プリセット・ディスプレイに一番近い音程が表示されます。FX と Voice I / 2 ボタンの上にはその音程に対するズレ幅（シャープ／フラット）が表示されます。弦のチューニングを上下いずれかの方向に変えると、FX と Voice I インジケーター LED が次の通りに点灯します。

<input type="checkbox"/> Hall	<input type="checkbox"/> — Higher — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Room	<input type="checkbox"/> — High — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Echo	<input checked="" type="checkbox"/> — Low — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Slap	<input checked="" type="checkbox"/> — Lower — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Combi	<input type="checkbox"/> — Bass — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> SFX	<input type="checkbox"/> ▲ Octave ▼ <input type="checkbox"/>

チューニングが合っている場合

<input type="checkbox"/> Hall	<input type="checkbox"/> — Higher — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Room	<input type="checkbox"/> — High — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Echo	<input checked="" type="checkbox"/> — Low — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Slap	<input type="checkbox"/> — Lower — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Combi	<input type="checkbox"/> — Bass — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> SFX	<input type="checkbox"/> ▲ Octave ▼ <input type="checkbox"/>

弦がシャープの場合

<input type="checkbox"/> Hall	<input type="checkbox"/> — Higher — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Room	<input type="checkbox"/> — High — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Echo	<input type="checkbox"/> — Low — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Slap	<input checked="" type="checkbox"/> — Lower — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Combi	<input type="checkbox"/> — Bass — <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> SFX	<input type="checkbox"/> ▲ Octave ▼ <input type="checkbox"/>

弦がフラットの場合

On フットスイッチを再度押すと、チューナー／バイパス・モードは終了します。

高度な設定

エフェクト・スタイルの高度な設定

エフェクト・スタイル（Hall、Room 等）には、標準のもの以外に「オルタネイト」と言われるバリエーションが用意されています。例えば、Hall（ホール）の他のサウンドを試すには、まず FX ボタンで Hall を選択し、その次に FX ボタンを長押しします。次に FX ボタンをタップすると、バリエーションが切り替わり、プリセット・ディスプレイにその番号が表示されます。気に入ったサウンドを見つけたら、FX ボタンを長押しするとメニューは終了します。この設定は必要に応じてプリセットに保存できます。エフェクト・スタイルの設定を切り替えて一周すると、バリエーションはデフォルトの設定に戻ります。

プリセット数の変更

Harmony-G XT は、工場出荷時には A と B 二つのセッティングで構成されるプリセットが 5 つ用意されています。これは、プリセットの変更にあたってフットスイッチや Preset ボタンを押す回数を極力抑えながら十分なセッティング数を切り替えられるようにするための構成となっていますが、使用状況によって 5 つもプリセットはいらない、または逆にもっとプリセットが必要、ということがあるかもしれません。Harmony-G XT では、一度にアクセスできるプリセットの数自体を変更することができます。

プリセット数を変更するには、Preset ボタンを押しながら電源を投入します。若干のタイムラグの後、使用するプリセット数に該当する数字（「5」等）が表示されます。Preset ボタンをタップするとプリセット数が順番に切り替わります。プリセット数の下限は 3、上限は 10（表示上は「0」）です。プリセット数を 1 つ、または 2 つには設定できません。使用するプリセット数を決めたら、Preset ボタンを長押しして、操作を確定させます。この後、Harmony-G XT は通常の動作に戻ります。

Manual - マニュアル・ボタン

時によって、固定のキー（E マイナー等）を設定して、ギターからハーモニーをコントロールしたくない、といった場面に遭遇するかもしれません。Manual ボタンはそういった場合に使用します。特定の曲ではギターを弾かない、そもそもギターは弾けない、または TC-Helicon の他製品で特定の曲で固定キーの方が良好なハーモニーが得られた、などの理由が考えられます。楽曲のキーがわからない場合、曲の最初または最後のコードであることが多いと言えます。

ギターを使ってキーを手動で設定する方法は次の通りです：

1. ギターで、ルートが楽曲のキーと一致するコードを弾きます。これは、曲が始まる前、または曲の途中どちらでも構いません。

2. コードのサステイン成分が鳴り続けている間に両フットスイッチを同時に踏みます。LED ディスプレイにはキーが表示され、若干のタイムラグの後自動的に表示が終了します。Manual LED が点灯し、ギターがハーモニーをコントロールしなくなったことを示します。キーとスケールを変更するには、次の #2 をご参照ください。

ギターなしでマニュアル・モードのキーを指定する場合：

1. 両フットスイッチを同時に踏みます。一時的にキー・セット・モードに入ります。その直後に数秒の間フットスイッチでキー指定の操作がないと、このモードは自動的に終了します。
2. 左フットスイッチを踏む度に、キーが順番に変わります。右フットスイッチを踏む度に、スケール（6種類）が順番に変わります。フットスイッチ操作を行なわないと、若干のタイムラグの後このモードは自動的に終了します。

Manual ディスプレイについて：

ディスプレイ上のキー表示は、3つの記号で示されます。例えば「E」「ー」「3」の順で表示される場合には、キーの種類はEマイナーの3つ目のスケール・バリエーション、ということになります。最後の数値はモディファイ・スケールで、メジャーとマイナーでそれぞれ3種類ずつ用意されています。楽曲によって、最も適した特定のスケールの種類は異なります。

良好なキーの設定が見つかったら、Preset ボタンを長押しすることで設定をプリセットに保存できます。

トーン・セッティングの高度な設定

Tone ボタンはデフォルト設定で幅広いシンガーに対応しますが、標準のもの以外に「オルタネイト」と言われるバリエーションが用意されています。

オルタネイト・トーン・セッティングにアクセスするには、プリセット・ディスプレイの番号表示が点滅するまで Tone ボタンを長押しします。次に Tone ボタンをタップすると、バリエーションが切り替わり、プリセット・ディスプレイにその番号が表示されます。

- d デフォルトの汎用セッティング
 - 1 ブライتناサウンドのPAの場合に適したセッティング
 - 2 ヴォイスに暖かみを加えるセッティング
 - 3 コンプレッションの強いセッティング（ご注意：コンプレッションにより、フィードバックが生じやすくなります）
 - 4 デフォルト設定、ゲート＝オフ
 - 5 オプション1、ゲート＝オフ
 - 6 オプション2、ゲート＝オフ
 - 7 オプション3、ゲート＝オフ

高度な設定

ギター・リバーブ/ディチューン

ギター・インプットを内部ミックスする場合、自動的にギターにリバーブがかかります。ギターのリバーブ・スタイルは、使用しているエフェクト・スタイルに依存します。ギター・リバーブとヴォイス・エフェクトのミックス・レベルは、FXコントロール・ノブで調節します。

リバーブとは別に、ギターにディチューン・エフェクトを加えることができます。FX ボタンを長押ししてから Double ボタンを押すと、その LED が点灯し、アドバンス・エフェクト・セレクト・モードに入ります。アドバンス・エフェクト・セレクト・モードを終了した後で Double ボタンを押してヴォーカルのダブリング効果をオン/オフしても、ギターに対するダブリングの状態は変わりません。他のエフェクト同様、ギター・ディチューンの設定はプリセットに保存できます。

ダブリングの高度な設定

ダブリング・エフェクトにも、FX 同様「オルタネイト」と言われるバリエーションが用意されています。Double ボタンを長押しすると Preset ディスプレイの表示が点滅します。次にボタンをタップすると、バリエーションが切り替わり、その番号が表示されます。再度ボタンを長押しするとメニューは終了します。この設定は必要に応じてプリセットに保存できます。

モノラルとドライ・アウトを使った外部ミキシング

ドライ・ヴォイス（トーンのみ）とハーモニー/ダブリング/エフェクトが施されたサウンドのバランス調節をサウンド・エンジニアに委ねたいことがあるかもしれません。この場合は、ドライ・ヴォイスとエフェクトの信号を独立してそれぞれをモノラルで送ることができます。まず、Stereo LED が点灯していないことを確認して、Harmony ノブを右側に回しきります。両チャンネルのアウトプットをミキサーに送ります。Left (Mono) アウトは「ウェット」、Right (Dry) アウトは「ドライ」信号となり、ミキサー側でバランスを調節することが可能となります。

ファクトリー・リセット：工場出荷時の設定への復帰

ファクトリー・リセットを行うと、エディットしたプリセットは消去され、全ての設定が工場出荷時の状態に戻ります。リセットを行うには、Manual と Voice 2 ボタンを同時に押しながら電源アダプターを接続します。

基準ピッチの変更

Harmony-G XT は、工場出荷時の設定では A=440 Hz の基準ピッチで作動します。ハーモニー・ヴォイスは、ギターが A=440 Hz でチューニングされている前提の音程となります。チューニングが異なるアコースティック・ピアノにバンド全体のチューニングを合わせる場合などで他の基準ピッチを使用する場合は、次の手順で Harmony-G XT の基準ピッチを変更できます。

Manual / Double / FX の 3 つのボタンを同時に押しながら電源アダプターを接続します。マイクを基準としたい楽器に向けて、その楽器で単音を鳴らします。いずれかのボタンを押すと、通常の動作に戻ります。

これで、ギターを新しい基準ピッチでチューニングできます。ギターのチューニングを行ったら、ハーモニー・ヴォイスも新しい基準ピッチに沿った音程となります。

電源を切ってから再投入した際には、基準ピッチは A=440 に戻ります。

VoiceSupport アプリケーション

概要

Harmony-GXT の製品パッケージには、VoiceSupport アプリケーションを含む CD-ROM が付属しています。Windows または Mac OS 機にインストールすると、ソフトウェアから次の操作を行なえるようになります：

- 作成したプリセットのバックアップとリストア（復帰）
- ビデオ・チュートリアル、バージョン・アップデート、使用上のヒントなどの最新ニュースの入手
- 製品登録
- 本体のシステム・アップデート

動作環境

- Mac: Mac OS 10.x 以降
- PC: Windows XP 搭載機
- インターネット接続

インストール方法

1. 付属の CD をドライブに挿入します。CD がお手元がない場合は最新版を www.tc-helicon.com/voicesupport.asp からダウンロードします。
2. セットアップ・プログラムは通常自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、CD 内の setup.exe を開きます。
3. 指示に従ってインストールを進めます。
4. 付属の USB ケーブルで Harmony-GXT をコンピュータに接続します。Harmony-GXT に電源ケーブルを接続します。
5. デスクトップの VoiceSupport アイコンをクリックして VoiceSupport を立ち上げます。

初回起動時

アプリケーションは起動時に Harmony-GXT の検知を試みます。成功すると接続が確立されたことを示すアイコンが表示されます。数回試しても接続がうまくいかない場合は本マニュアルの FAQ セクションをご参照ください。次に、VoiceSupport は TC-Helicon ウェブサイトから Harmony-GXT に関連する最新ニュース項目を確認します。HOME ウィンドウをスクロールして、画面の下に非表示のコンテンツがないか確認してください。項目を読むと、「New」アイコンは消えます。本マニュアルの執筆時現在、ニュース項目は常に VoiceSupport 内に表示されます。

ニュース項目をご一読の後は、トップ・メニューの REGISTER ボタンを押してフォームにご記入いただくことで製品のユーザ登録を行なえます。

Download - ダウンロード・タブ

将来的に、Harmony-GXT のファームウェアがアップデートされることがあるかもしれません。アップデートは通常ユーザー様からのご意見等を取り入れた新機能や既存の機能の改良、バグ・フィクスなどを含みます。

Download タブは、通常製品のアップデートが供給されている際のみ使用します。アップデートが用意されている場合は、「Load a sysex file..」(SysEx ファイルをロード) という項目の上に、アップデートの説明文が表示されます。複数のアップデート項目がある場合は、一番上の項目が最新とないます。製品をアップデートする前に、内容を必ずご確認ください。

Backup - バックアップ・タブ

お持ちの Harmony-G XT のプリセットをエディットしてその設定のバックアップをコンピュータに保存しておきたい場合は、このタブを使用します。一台の設定を別の個体に移したい場合にも使用します。

このタブは、Backup (バックアップ) と Restore (リストア) の2つのウィンドウで構成されます。Backup はプリセットとセットアップ (48V オン/オフ、ステレオ/モノ、等) パラメータの設定をコンピュータのユーザーが指定したフォルダに保存します。Restore はこのデータをコンピュータから Harmony-G XT に転送します。

定期的にご確認ください

VoiceSupport が読み込むニュース項目は、製品の活用法のヒントとなったり、製品知識を深めていただくのに有益な情報が含まれます。Harmony-G XT を接続していない場合でも、度々アプリケーションを起動して、最新情報を是非ご確認ください。

FAQ & トラブルシューティング

ギターからハーモニーをコントロールできません

- ギターのボリュームを上げます。
- ギターを一度アンプに直接接続し、ケーブルに問題がないことを確認します。
- Harmony-G XT のインプットの前にエフェクトを接続している場合は、それらを外します。
- 演奏するコードが、最低でもルートと3度（メジャーまたはマイナー）を含むことを確認します。
- Manual ボタンがオフであることを確認します。

歌っているとギターのボリュームが変わってしまいます。

手で調節する方法はありませんか？

- Guitar ノブを Auto 以外の設定にします。

ギターをアンプに接続していますが、音がでません

- バイパス/チューナー・モードにいる可能性があります。On フットスイッチを踏みます。

FX レベルは上がっていてもサウンドがドライなままです

- FX がオンでも、FX スタイルがオフだとエフェクトは聞こえません。FX ボタンを押して、FX スタイルを切り替えてみてください。

MC 時などにはエフェクトをオフにしたい

- On フットスイッチを長押しして、バイパス/チューナー・モードに切り替えます。

サポートを受けるにはどうすればいいのでしょうか

- www.tc-helicon.com か、ご使用の地域の輸入代理店・支社のウェブサイトをご参照ください。サポート・サイトやサポート連絡先の情報が掲載されています。

ハーモニーがオフのプリセットを作りたい

- Voice 1 と Voice 2 ボタンの LED が点灯している場合は、該当するボタンを押せばオフになります。

ギター演奏のヒント

ハーモニー・ヴォイスをギターの演奏に正しく追従させるには、Harmony-G XT がギターの演奏内容を正しく認識できるようにするのが重要です。まずは、全ての弦が正しく発音するように、丁寧な演奏を心がけてください。ヴォーカルが楽曲の頭から入る場合には、ギターでも頭にコードを弾いてください。

ギターのチューニングも、精度に大きく関わります。チューニングは A=440 Hz に合わせてください。楽曲内でハーモニーを加えたいセクションで頻繁なコード・チェンジがあったり、ギターで単体のラインやスローなアルペジオを弾かなければならない場合は、マニュアル・モードを使うのも一つの選択肢です。

ヴォーカル・パフォーマンスのヒント

ヴォーカルの音程が正確であるほど、ハーモニーの精度も増します。ハーモニーの音程には微量のピッチ補正が施されていますが、ハーモニーの音程は基本的にシンガー次第です。

また、アンプやモニターをマイクに向けてしまうと、Harmony-G XT が混乱してしまう原因となります。

オルタード・チューニングは使用できますか？

ドロップ D (DADGAD) などのオルタード・チューニング自体は、特に問題ありません。

原則として、Harmony-G XT が重要視するのはコードのルートと3度です。これらの音程がはっきりとわかるヴォイスिंगを心がけて、ギターのチューニングが Harmony-G XT のチューナーと合っていれば、オルタード・チューニングを使用できます。

VoiceSupport が Harmony-G XT を認識しません

USB ケーブルを正しく接続しても VoiceSupport アプリケーションが Harmony-G XT を正しく認識しない場合は、次をお試しください。

1. コンピュータを再起動・ Harmony-G XT の電源を再投入した上で、VoiceSupport を再度立ち上げてください。
2. コンピュータに接続されている MIDI I/O 機器を一度外した上で VoiceSupport を再度立ち上げてください。
3. 他のコンピュータに VoiceSupport をインストールして、お試しください。

エフェクトとダブリングのオルタネイト設定リスト

FX - エフェクト

Hall - ホール

1. Broadway Hall、ディケイ= 2.6 s
2. Smooth Plate、ディケイ= 4.7 s
3. Arena、ディケイ= 6.0 s

Room - ルーム

1. Bouncy Room、ディケイ= 910 ms
2. Music Club、ディケイ= 1.6 s
3. Stretched Room、ディケイ= 440 ms

Echo - エコー

1. 300 ms ディレイ、フィードバック有り
2. 400 ms ディレイ→ Bright Chamber リバーブ
3. 右チャンネル= 350ms、左チャンネル= 515ms、フィードバック有

Slap - スラップ

1. 140 ms ディレイ、フィードバック有り
2. 140 ms ディレイ→ Thin Spring リバーブ
3. 右チャンネル= 165 ms、左チャンネル= 150 ms

Combi - コンビ

1. ディチューン→ 360 ディレイ→ Bright Chamber リバーブ
2. コーラス→ 110 ms ディレイ→ Broadway Hall
3. ディチューン→ 690 ms ディレイ→ Broadway Hall

SFX - サウンド・エフェクト

1. St. Joseph Church、ディケイ= 4.2 s、エキストラ・ウェット
2. マルチタップ・ディレイ、右チャンネル= 515 ms、
左チャンネル= 815 ms、フィードバック有
3. ヘビー・フランジャー、ハイ・フィードバック

NOTE:ギターを Harmony-GXT のアウトプットにルーティングする場合は、先のテーブルのヴォーカル・リバーブを共用します。Echo バンクの様にはヴォイスにリバーブが加わらない場合は、ギターのリバーブ・スタイルはデフォルトで Soft Hall、ディレイ = 3.6 s の設定となります。

Doubling - ダブリング

- d. (デフォルト) Tight 1 Voice - 初代 Harmony-G と同じ
1. Natural 1 Voice - より緩いヒューマナイズとスクープ
 2. Tight 2 Voice - 2 声ダブリング、タイトなヒューマナイズ設定
 3. Natural 2 Voice、2 声のダブリングにより多くのヒューマナイズとスクープ効果を付加

アナログ入力

- ◆ マイク・コネクター：バランスXLR、入力インピーダンス 1k Ω
- ◆ マイク・インプット感度 @ 0dBFS：-44dBu ~ +2dBu
- ◆ マイク・インプット感度 @ 12dB ヘッドルーム：-56dBu ~ -10dBu
- ◆ ギター・インプット・コネクター：1/4"フォーン・ジャック、入力インピーダンス: 1M Ω
- ◆ ギター・インプット感度 @ 0dBFS：+15dBu
- ◆ EIN-12dBu @ 最大マイクアンプ・ゲイン、Rg = 150 Ω

アナログ出力

- ◆ メイン・アウト・コネクター：バランスXLR
- ◆ 出力インピーダンス：40 Ω
- ◆ 出力レベル @ 0dBFS：+2dBu
- ◆ ギター・スルー・コネクター：アンバランス 1/4"フォーン・ジャック
- ◆ ギター・スルー出力インピーダンス：270 Ω

アナログ・オーディオ性能（入力→出力）

- ◆ ダイナミックレンジ（マイク @ 最小ゲイン時）：>108dB、20 Hz ~ 20kHz *A-weighted
- ◆ ダイナミックレンジ（マイク感度 @ -18dBu 時）：>104dB、20 Hz ~ 20kHz *
- ◆ THD+ノイズ（マイク @ 最小ゲイン時）：<-90dB
- ◆ 周波数特性（最大ゲイン-1.5dB @ 40Hz）：200Hz ~ 20kHz (+0/-0.3dB)
- ◆ ギター・インプット→スルー・ダイナミックレンジ：>119dB
- ◆ チューニング・ミュート時アッテネーション：>100dB

コンバージョン特性

- ◆ サンプルレート：48 kHz
- ◆ コンバータ：AKM AK4620B
- ◆ AD / DA 変換：24 ビット、128x オーバーサンプリング・ビットストリーム

EMC & 安全

- ◆ Complies with EN 55103-1 and EN55103-2 FCC part 15, Class B, CISPR 22, Class B
- ◆ Certified to IEC 65, EN 60065, UL6500 and CSA E60065 CSA FILE #LR108093

環境

- ◆ 作動環境温度：0 $^{\circ}$ C ~ 50 $^{\circ}$ C
- ◆ 保管環境温度：-30 $^{\circ}$ C ~ 70 $^{\circ}$ C
- ◆ 湿度：最大 90%（結露なきこと）

その他

- ◆ 寸法：130 mm × 132mm × 41mm
- ◆ 重量：0.72 kg
- ◆ 製品保証：1年

仕様は予告なく変更となる場合がございます。